

# 海老名災害ボランティアネットワークだより



令和2年12月1日発行 第36号

発行 海老名災害ボランティアネットワーク（略称：海老名災ボラ）  
 事務局 海老名市めぐみ町6-3、福祉会館・海老名市社会福祉協議会気付  
 ホームページアドレス <http://www.ebina-saibora.net/>

## 10月31日（土）「風水害から身を守る」講習会を開催

「風水害から身を守る」講習会を10月31日（土）午前（第1回）と午後（第2回）に、海老名市総合福祉会館で開催しました。「海老名災害ボランティアネットワーク」と「海老名市自治会連合会防災部会・戸建て部会」の共催による「風水害対策講習会」で、10月10日に予定していたが、台風接近のため、10月31日に延期されたものです。

### 新型コロナウイルス感染症対策を講じて実施

- 会議室の広さに対応した参加人数制限（事前申込制で18名以下に制限）
  - マスク着用、手指の消毒、体温測定
  - 窓を開けて換気（密閉防止）
  - 座席間隔を空ける（密集防止）
  - 対面して大声で話さない（密接防止）
- 参加者：自治会長（自主防災組織役員）と  
 海老名災ボラの会員
- 午前の部：14名、午後の部：14名



### 風水害対策講習会の概要

講師：中村敏一（海老名災ボラ会員、消防庁・消防防災科学センター図上訓練指導員）

- ① 地震と風水害の違いを認識しよう！ 地震は突然、台風は気象情報で動きが分かる。
- ② ハザードマップを見て被害のシュミレーションをしてみよう！ 床上浸水、道路冠水、停電など
- ③ 避難について：地域の状況（土砂災害警戒区域、洪水浸水想定区域）で異なること、災害の進捗状況が刻々と変化していくことに注意して、早めの避難（水平避難、垂直避難）が重要です。
- ④ 災害予防管理（日常的な事前の備え）と災害活動管理（災害発生時の活動）が必要です。
- ⑤ マイタイムラインの作成：台風接近などの際に自分が取るべき防災行動計画を自分で作成します。

時間の変化にそって、気象情報や市からの情報などに注意して、自分の取るべき行動をつくっておく。

- ⑥ 地域のマイタイムラインの作成：自治会・自主防災組織が取るべき防災行動計画で、台風等が接近する前の行動（連絡体制、避難所開設情報など）と、台風等が去った後の行動（安否確認など）。

特に災害時要支援者名簿の確認（要支援者がどこにいるのか等）と支援活動を決めておく。

【質疑討論】河原口の自治会：昨年の台風19号の経験を基に、洪水浸水時の「一時避難場所」としてマンション等を指定した。地域内のパチンコ店の駐車場を一時避難場所として協定を結んだ。

【参考資料】「海老名市防災ガイドブック」保存版、令和2年3月、海老名市発行、（次頁へ続く）

## 11月14日(土)午前(第3回)「風水害から身を守る」講習会：災ボラ単独で開催

第3回目の講習会は災ボラ会員だけの参加となりました。防災指導員や民生委員になっている災ボラ会員やマンション居住の会員から質問が出るなど、内容としては一定の前進がありました。

## 新型コロナ感染症拡大の状況で「災害ボランティアセンター開設・運営」を検討

2020年に入ってから九州地方での豪雨災害などでも、コロナ感染症の拡大を防ぎながら、災害救援ボランティアセンターが運営されました。そうした経験に学びながら、海老名が被災地になった場合、新型コロナ感染症拡大を防ぎながら、どのようにセンターを運営するか、海老名市社会福祉協議会を中軸に海老名災ボラも協力して検討を開始しました。来年2月頃に開設運営訓練を予定しています。

## コロナ禍でのボランティア活動の継続：感染防止対策の徹底とオンライン化

新型コロナ感染症拡大が鎮静化していない状況下で、ボランティア活動をどのように進めるのかについて、海老名災ボラも悩んで来ました。マスク着用、手指などの消毒、3蜜（密閉、密集、密接）を回避する対策を講じながら、講習会や訓練の開催が一つの方策です。もう一つは、オンラインで出来る領域を拡大していくことです。

海老名災ボラでは、会員間の連絡ならびに情報提供に従来からメーリングリストにより行っております。昨今のコロナ禍の中、更に会員間のコミュニケーションの即時対応を目指して、手軽にスマートフォンなどでコミュニケーションが出来き、災害時にも役立つ「LINE(ライン)」による会員間の相互コミュニケーションの活性化に役立てております。

## コロナ禍で総会を「書面議決方式」で開催：海老名災ボラ（2020年6月）

毎年4月に予定されていた海老名災ボラの定期総会は新型コロナ感染症が拡大したために延期し、6月に「書面議決」方式で開催しました。海老名災ボラ設立（2001年）以来、初めてのことなので、感染症拡大を回避しながら、どのように会員の意見を反映し、活動方針を決定していくのかに苦慮しました。

総会議案書と書面議決書を会員に送付（メール、FAX、郵送）し、書面議決書を会員から回収（メール、FAX、郵送）し、回収率88.5%（会員総数52人のうち回収数46人）で全ての議案を可決しました。

### 海老名災害ボランティアネットワーク 会員募集中！

海老名災ボラでは、次の3本の柱を軸に、様々な活動を行っています。

- ①市民の災害対応力（「自助」・「共助」）を高める活動
- ②海老名が被災地となった時に「災害救援ボランティア・コーディネーターとしての活動、
- ③大規模災害が発生した場合に被災地被災者支援のボランティア活動への参加



申込み：メール：[edvn-info@ebina-saibora.net](mailto:edvn-info@ebina-saibora.net)

FAX：046-233-4529

入会希望者は福田に連絡をください。申込書を送ります。

申込書は、海老名災ボラのホームページに掲載されています。

問い合わせ：090-2160-4352